

64年本学大衆団交

新起走

国策

衆議院

大衆団交

12:00 墳水前集合
 2:30 榎大衆団交

我々、日本大学の学友一万五千人は五月三十一日の文理部
 部に総集し、その段階における勝利を自らのものとした
 しかし、我々は五月三十一日の勝利で自己満足しては行け
 ないのだ。我々は日本大学の輝ける未来のために、今日
 の大衆団交についての、大甲で強固な意志の一致を、今日
 にはからねばならない。そうしたことを経るなかで我々の
 勝利のための長期的展望が可能になるのだ。
 日大の反動の歴史は古田会頭が就任した年から、わか
 料の大幅な値上げがあげられる。又そのことをなすに
 内容は一九五八年に日大合理化改善案ができた。その
 企業原則のもとに、国策に全く無批判に盲従した大衆団交
 をその前提とし、学内においては学主の自主的な政治活動
 (大学の自治会活動も含む)を禁止し、世界の総行大衆団交
 量の増大によって、めざそうとするものであった。又その
 は大衆団交理事者は学主に対する態度の画一化を意図し、
 その露骨なあらわれとして日本精神の改悪、つまり「日本
 大学は日本国憲法に精神にもとづき」というところを「日
 本大学は日本精神にもとづき」と変えたことがあげられる
 このような事実こそは、はつきりと日本国憲法にかつた
 教育基本法に精神を否定し、教育研究の場である大学か
 ら営利を目的とした大学(一般的に、日大は株式会社だと
 云われている)をめざしていることを、如果にものがたつて
 いる。その他、あるいは校中専門センター、あるいはた
 心接団問題等が日大には存在しているのだ、ということに商
 学部学友は知っておいてほしいと思います。
 現在、商学部学友諸君の中で、二年生では闘争委員会を
 結成され、三年生においても同様であり、四年生では闘争
 委員会の準備的な意味合いを持つ民主化委員会がつくられ
 ている。このような動きこそ我々日大生は注目しなければ
 ならない。すなわち内閣意識を持った学生が大衆団交の輝
 けには一人一人の団結の力をあわせてすれば、それに対応で
 きるのだ、ということを経た組織をつくることで具体的に
 示しているのだ、ということである。又日大はほんとかつた
 くして、この意識が静かに、しかし着実に商学部学
 友の間に浸透している明らか証しでもある。
 我々日大生が大学の民主化をめざして立ち立ったこの専
 門を質的により発展させるためには、現在の大学機構のう
 らに存在しているものを理解しなくてはならない。それこ
 そ我々に対して自己疎外を感じさせている根本の原因であ
 り、我々を商品化させている悪の根源なのだ。我々はもう
 普遍化したところの「産学協同路線」といふ言葉の真の意
 図するところを、日大民主化闘争を推進するに際しては、
 協同路線、のその最高峰をいく大学として存在しているか
 らである。だからこそ我々の学園民主化の闘いは、単に
 脱税追求にとどまらず、それを可能ならしめた大学機構、
 すなわち「産学協同路線」をうちやぶることをその究極目
 的とする必要がある。我々の闘いは、そのしつと明確な基本
 方針にのっとり、今日の大衆団交の意義をも貫徹させるの
 だ。我々は今日の大衆団交には商学部六千の学友でもって
 総起し、神田三崎町周辺を古田会頭をいじめとする全理
 事に対する怒りのシユプレトコールとデモであらざるめつて
 我々の正義の闘いを断固おしすすめるようではないか。
 我々商学部の学友は、学部という国境を廃止し、日本大学
 のすべての学友と交流をはかり、共にこの闘争をたたか
 いて、その闘争に勝利することにより普遍性をもちのた
 ということをここに確認したいと思ひます。

学園民主化を勝ちとるぞ、
 経理の公用を要求するぞ、
 全理事は退陣せよ

経済不当処分撤回
 検閲制度撤廃